



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

9月号

令和5年8月31日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



過去に学び、考え、未来を創る

校長 田島 馨

明日は9月1日、「防災の日」です。全国各地で、災害を想定した防災訓練や、防災意識を高める防災イベントが行われます。本校でも、校内で「総合防災訓練」を行い、発災時の対応を学び、防災意識の向上を図ります。9月1日が「防災の日」に制定された理由の一つが、今からちょうど100年前の1923年9月1日に発生した関東大震災です。相模湾を震源としたマグニチュード7.9の大地震によって、ここ横浜でも、建物の倒壊や大規模な火災によって甚大な被害が出ました。その反省をもとに、災害に強いまちづくりが行われてきています。

学校では、毎月のように避難訓練を行っています。これは、過去の災害等の事例をもとに、さまざまな危険から自分や仲間の身を守る方法を身に付け、いざというときに命を守ることができるようにするためです。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震の後、大きな津波が発生しました。特に東北地方では、校舎の高さをも超える津波が押し寄せ、不幸にも多くの命を奪うことになってしまいました。そうした中でも、岩手県釜石市の小中学生がいち早く高台に避難し、命を守ったことが大きく伝えられました。これは、学校で繰り返し行っていた避難訓練や防災教育の成果だと言われています。また、三陸地方には『いのちてんでんこ』という言い伝えがあります。

「津波が来たら、家族がてんでばらばらでもとにかく逃げろ」という教訓です。これは、三陸地方が過去に何度も大津波を経験し、津波の怖さを地域の人々が共有していることを示しています。過去の教訓に学び、自分の頭で判断し主体的に行動することができたおかげで、多くの命が救われることにつながったのだと思います。

一方で、災害時に広まったデマによって罪のない人々が命を落とすという、痛ましい事件についても伝えられています。関東大震災の発災後には、「東京湾に猛烈な海嘯（津波の別名）襲来する」「昨夜の火災は不逞鮮人の放火または爆弾の投擲」（1925年 警視庁『大正大震災火災誌』より）などの流言が広まり、官憲、被災者や周辺住民による殺傷行為が多数発生した（内閣府：災害教訓の継承に関する専門調査会報告書）との記録が残っています。当時は公的な報道機関が少なく、早く正確な情報が伝わりにくかったために、このような流言が広まってしまったと考えられています。

現在は、多くのマスメディアが存在し、情報に容易にアクセスできるようになっています。また、SNSの発達により、個人が情報を発信することも日常です。多くの情報を取り入れることができるために、100年前のような悲劇は起こりにくいとも考えられます。しかしながら、画像生成AIなどを使用し、真偽が判別しがたいような情報が出されてしまう事例も報告されています。ともすれば、100年前よりむしろ、間違った情報を信じやすい状況があると言えるのではないのでしょうか。

災害時に自分や仲間の身を守るためには、何が正しい情報で、どういう行動をとらなければならないのかを考え、判断することがより一層大切になってきます。今後とも、自分の頭で考え、主体的に行動できる子どもの育成に力を尽くしたいと考えています。